

# 日本水環境学会シンポジウム講演集原稿執筆および発表要領

## I. 講演要旨原稿の作成要領(執筆例参照)

### 1. 原稿形態

- (1) 原稿はA4判とし、左右各15mm、上20mm、下25mmの余白を取り、その枠内に文章、図表が収まるようにして下さい。
- (2) 原稿枚数は、図表も含め2枚までです。
- (3) 印刷はモノクロです。

### 2. 原稿作成方法

- (1) 題目、発表者、登壇者は、発表申し込み時に提出された申し込み書と同一のものに限ります。
- (2) 原稿の文字は9~10ポイントの活字(1行45字を目安)とし、行数は50行を目安として下さい。
- (3) 題目、発表者の所属および氏名は、1枚目の1~6行に記入して下さい。
- (4) 題目は本文よりも**大きな活字**あるいは**ゴシック体**とし、題目は中央揃えにしてください。
- (5) 発表者の所属および氏名は右寄せで記入して下さい。発表者が複数の場合、登壇者の氏名の前に○印を付けて下さい。また、発表者の多い場合は所属ごとの改行をせず、続けて記入して下さい。
- (6) 5~6行に1コマ目から、題目、発表者の氏名および所属を英語でこの順に、コンマ区切りで続けて記入して下さい。所属は括弧書きとし、できるだけ省略した記載法を用いて下さい。なお、前置詞、接続詞等を除く単語は、最初の文字を大文字にして下さい。英語での原稿の場合、この要領で日本語を記入して下さい。
- (7) 本文は2段組とし、7行目から書き始めて下さい。2段組のための中央部の空白は5mmを目安として下さい。本文は、目的、実験方法、結果、考察、結論などの項に分け、それぞれの文頭にこれらを明示して下さい。研究内容によりこれらの項に分けにくい場合は、項の一部を省略してもかまいませんが、上記に相当する内容を必要とします。
- (8) 記号や略号などは、学会ホームページの投稿論文執筆規定にならして下さい。  
(<http://www.jswe.or.jp/kais/jour/kitei/top.html>)
- (9) 講演要旨の内容に関する責任は著者にあり、当学会が責任を負うものではありませんが、特定の商品の宣伝と思われるもの、あるいは内容が不適当と認められるものは、返却もしくは訂正を求める事があります。

### 3. 図表の作成方法

- (1) 図表は鮮明に作成し、細かい字や図は避けて下さい。
- (2) カラーで作成した図表等を含む原稿は、モノクロでコピーもしくは印刷し、判別できることを確認してください。

## II. 講演要旨原稿の送付

- (1) 締切日: 開催日の約1か月前(学会誌又はHPでご確認ください)
- (2) 原稿提出先: 発表者は、電子媒体と、A4判に出力した原稿3部を各研究委員会のシンポジウム連絡担当へ提出して下さい。
- (3) 原稿送付先: 各研究委員会シンポジウム連絡担当は、電子媒体、及び印刷物**2部**を日本水環境学会事務局に送付して下さい。その際、印刷物には下記を鉛筆で記入して下さい。
  - ① 上部右側空白部に、1部には「正」、1部には「副」
  - ② 上部左側空白部に研究委員会名(略称)、頁(1/1あるいは1/2、2/2)および登壇者氏名

### 注:

原稿が上記期限までに到着せず、その後の作業に多大な支障をきたす恐れがあると判断された場合、遅着原稿は欠番としますのでご注意ください。

## III. 講演発表要領

### <発表の心得>

- (1) 一般講演の講演時間は、各研究委員会で決められます。時間を厳守して下さい。
- (2) 液晶プロジェクターの利用が可能です。
- (3) 発表にあたっては、次の点に留意して下さい。
  - a. 研究の意義と位置づけ
  - b. 研究に伴って得た周辺知識のまとめ
  - c. 得られた興味深い所見
  - d. 重要な成果の例示
  - e. 得られた所見の有用性
  - f. 今後の発展方向
- (4) 発表日時は、HPもしくは「水環境学会誌」8月号掲載予定のプログラムを参照して下さい。
- (5) 発表者は、発表予定時刻の30分前までに必ず発表会場に入場して下さい。

### <発表資料(パワーポイント)の作成>

次の点に留意して発表資料を準備して下さい。

- (1) 1ページの説明時間: 約1分(1分以内で説明できないものは好ましくありません。)
- (2) 1ページ1テーマの内容とし、盛りだくさんとしなない。
- (3) 表、式はなるべく避け、単純なグラフ、スケッチ等を用いて、シンボリックな表記をする。
- (4) 題目を含む序に相当するものを第1ページとすることが好ましい。
- (5) 最後に“まとめ”を箇条書きにすることが好ましい。
- (6) 質疑の際に言及するのに役立つため、各ページの下中央に鮮明にページ番号を付けることが好ましい。

日本水環境学会シンポジウム講演集原稿執筆例 (中央揃え、大きな活字あるいはゴシック体)

(右寄せ) 龍谷大学工学部 ○琵琶 湖太郎、水 澄志

An Example of the Manuscript for the Proceedings of the Symposium of JSWE, by Kotaro BIWA, Sumashi MIZU (Dept. of Sci. & Eng./Ryukoku Univ.) (左寄せ)

1. はじめに

5. 結論

【文字 9~10ポイント】  
【2段組段間余白 5mm程度】

2. 実験方法

【図表 右段】

表1 実験条件

3. 実験結果

図1 実験結果(1)

図2 実験結果(2)

4. 考察

参考文献